

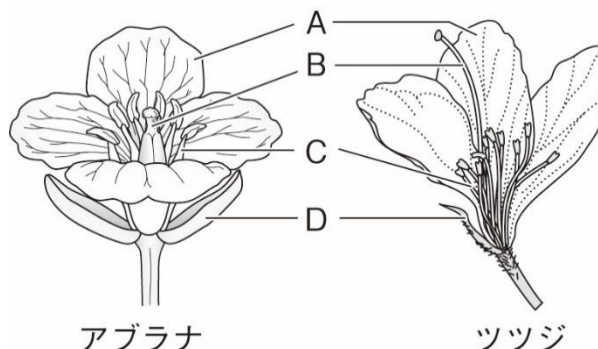
中学1年 理科休校中の宿題 No.5 < 花のつくりとはたらき >

生命編 第1章 花のつくりとはたらき

最初は小学校5年生の理科の授業で習った内容の復習です。植物の花のつくりについて名称を覚えましょう。教科書のP16～P23を参考に学習しましょう。

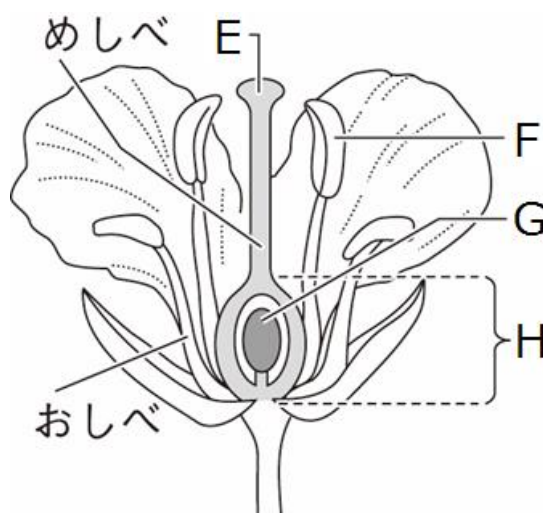
アブラナの花とツツジの花

- Aは小学校までは花びらとよんでいた部分で、中学校からは（ ）という。
- Bはめしべ、Cはおしべという。
- Dは花の一番外側についている部分で、（ ）という。



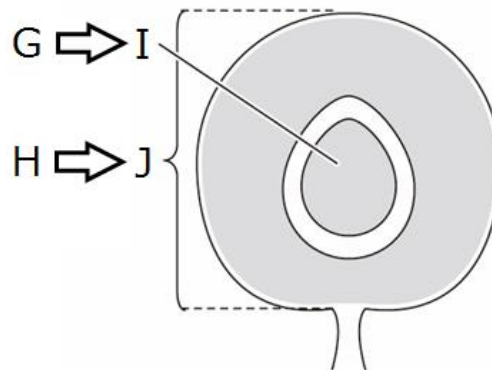
サクラの花のつくり

- Eはめしべの先端の部分で、（ ）という。
- Fはおしべの先端にある小さな袋で、（ ）という。この中には、（ ）が入っている。
- Gはめしべの根もとのふくらんだ部分に入っている粒で、（ ）という。
- HはGが入っているふくらんだ部分で、（ ）という。



花の変化とはたらき

- おしべのやくから出た花粉が、めしべの柱頭につくことを**受粉**という。花粉は動物や風などの力によって運ばれる。
- 受粉すると、Gの部分はIになる。Iは（ ）という。また、Hの部分はJになる。Jは（ ）という。
- 地面に落ちたIはその後、発芽して次の世代の植物になる。つまり、花は（ ）はたらきをしている。



～考えてみよう～

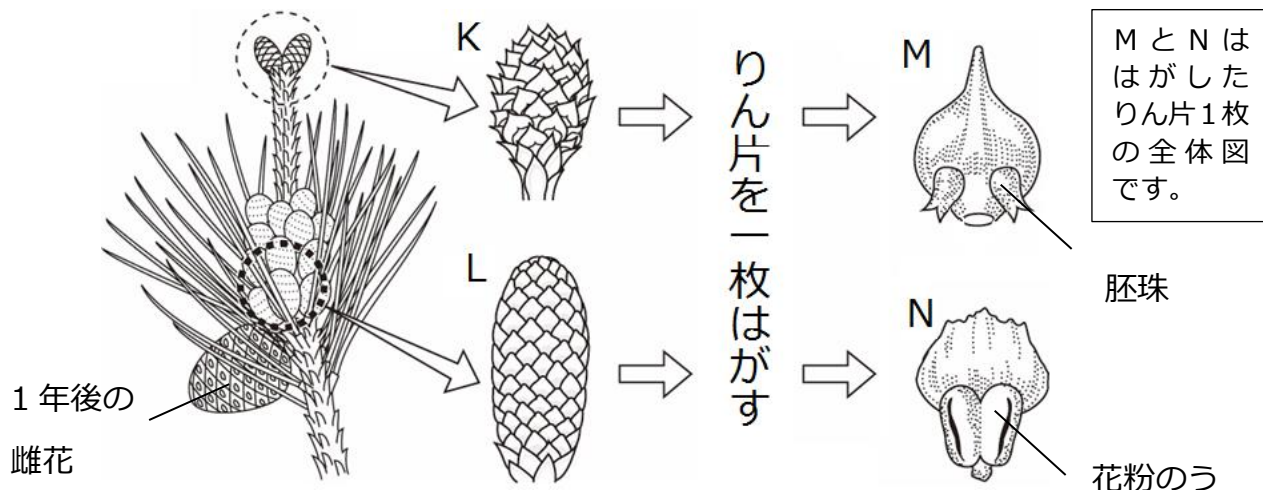
アブラナやツツジ、サクラの花は目立つ色・大きさをしている。他にも、つよいにおいをさせる花もある。これらはどのようなはたらきをしていると考えられるか。

考え：『

』

マツの花のつくりとはたらき

大綱中学校のグラウンドにはマツの木があります。マツは目立った花をつけませんが種子をつくってふえています。その体のつくりを、教科書のP24～P25を参考に学習しましょう。



- マツはおしべやめしべがなく、Kの**雌花**とLの**雄花**をもっている。また、それぞれの花に、花弁やがくはない。
- 雌花のりん片を一枚はがすと、Mのようになっていて、()がなく()がむきだしでついているのがわかる。
- 雄花のりん片を一枚はがすと、Nのようになっていて、ぷっくりとした()があるのがわかる。この中に花粉が入っている。
※花粉には空気袋がついていて、風に飛ばされやすいように工夫されている。そのおかげで困る人たちが毎年います。
- 花粉が直接、雌花の胚珠にくっついて受粉となり、1年以上かかってまつかさになる。その時、りん片の胚珠は()になる。

種子でふえる植物と分類

- ここまで紹介した、種子で増える植物のことを、()植物といい、胚珠が子房の中にある植物を、()植物といい、その中でも、花弁が1枚1枚離れているものを**離弁花**、花弁がくっついているものを**合弁花**という。また胚珠がむき出しになっている植物を、()植物という。